



2020年度 年主題〈こころが満たされる〉

0・1・2歳児12月主題「うれしいね」
月のねがい
◎クリスマス喜び、うれしい気持ちを感じ合う(0) ◎寒い冬を健康に過ごす(0) ◎絵本を読んでもらったり、クリスマスの歌や手遊びを楽しみながら繰り返す(0) ◎イエス様のお誕生を楽しみに待ち、祝う(1.2) ◎クリスマスの雰囲気を楽しみ、絵本やさんびかに親しむ(1.2) ◎まわりの人と思いを共有する経験をする(1.2)

3・4・5歳児12月主題「喜びにあふれて」
月のねがい
◎クリスマスの意味を知り、友だちと心を通わせ礼拝し、イエスさまの誕生を祝う(3) ◎喜んで賛美したり踊ったりして心を弾ませる(3) ◎興味あることにじっくりと取り組み、うれしさを感じる(3) ◎クリスマスの意味を知り、愛されていること喜びの中礼拝する(4.5) ◎クリスマスの喜びを分かち合うために自分たちにできることを考える(4.5) ◎寒さの中でも、身体を動かすことを仲間と一緒に楽しむ(4.5)



寒い冬に向けて

11月だというのに子どもたちは半袖で過ごすくらい日中はまだまだ温かく、でも準備はクリスマス・・という不思議な感じで過ごしています。コロナウイルスにも気を遣いながらですが、まず私たちができることは、しっかりと食事や睡眠そして遊んで身体を強くすることです。日々の当たり前の生活を当たり前に継続していきたいですね。今の状況の中、それがなにより大切だと改めて思います。

睡眠と言えば、先日市のネットワーク会議で「落ち着かない」「感覚過敏」「集中力がない」「朝、体が動かない」これらの症状は、睡眠の質が低下すると顕著に表れるとの話を聞きました。ただ、睡眠の時間が長ければいいというものではないとのことでした。確かに以前、夜の22時～2時の間は睡眠の中でも特に大切に、この時間に寝ると痩せやすく、逆に起きていると太りやすくなる・・どうせ寝るなら中身の濃い睡眠を・・と聞いたことがあり実践しよう!!と試みた時期がありました。今回の研修の内容では、

- ①日中はなるべく体を動かす活動をし、夜はしっかりと寝る。
- ②就寝2時間前はノーメディア(スマホ、テレビ、ゲーム)に取り組む。
- ③お風呂に入る、絵本を見る、本を読む、家族で語らう等を「就寝準備」として取り入れる。
- ④夜の間食は避け、朝食をきちんと摂る。
- ⑤朝食にはタンパク質をしっかりと摂る。
- ⑥朝目覚めたらなるべく日光を浴び、可能ならば朝陽を数秒間しっかりと見つめる。(目から刺激を入れるとホルモンのバランスを整えられる)

この上記の6点を毎日行う事が子どもたちの睡眠の質を高め、落ち着いて過ごす事ができ成長に繋がるとのことでした。子どもたちの能力を最大限に発揮するためには心身が良いコンディションであることが大切で、睡眠は生活習慣の影響が大きいようです。

だんだん寒くなり、体調が崩れやすくなります。そして、コロナというよく分からない感染症にも付き合わなくてはなりません。「質の良い睡眠」ができれば、冬の病気にも負けない強い身体作りができそうですね。さて、いよいよ12月です。2学期も残り僅かとなりました。クリスマス会は例年と違った形になりますが、運動会やお相撲大会とは違った子どもたちの様子もお楽しみ下さい。 森山

今月の聖句 「今日ダビデのまちで、あなたがたのために救い主がお生まれになりました」

ルカ2:11

今年もクリスマスを迎えようとしています。コロナ禍の中、どのようなクリスマスになるでしょうか。どのようにクリスマスを迎えられるでしょうか。

イエスさまがお生まれになった時代は、コロナのような疫病パンデミックはなかったものの、絶対的権力者が支配する世の中で、人のいのちも尊厳も今ほどに尊ばれない時代でした。男の子の誕生を望む家庭に女の子が生まれたら捨てても罪に問われない、又、そのように捨てられた女の子を拾い集め将来の神殿娼婦に育てる業者まで存在するような世界が当時のローマ帝国社会でした。そんな中、ユダヤ社会の道徳観は飛び抜けて優れていたと言われています。けれども、そのユダヤ社会の中でさえ差別があり、多くの人々が苦しんでいました。イエスさまは、そのような矛盾だらけの世界に神の子として誕生してくださいました。

キリスト教の最大の特徴がそこにあります。神であるお方が人となってくださった。聖書の描く神は下に降りてくださるお方なのです。その他の宗教は全て上を目指します。人が神を目指します。けれども、聖書が描く神は全くその逆の道を歩みます。神が人となってくださった。そして、人が経験する痛みや苦しみに寄り添い、その弱さの中から見えてくる強さを明らかにしていただきます。クリスマスを迎える時に、その真理を思わずにはおれません。同時に、このコロナ禍にあっても、イエス・キリストは私たちと共にいて、私たちを励まし、慰め、力付けて下さるお方なのです。メリー・クリスマス!

協力牧師 池田基宣

12月の行事予定

5日(土)	クリスマス会
11日(金)	もちつき大会
15日(火)	絵本の会クリスマス公演
17日(木)	12月生まれ誕生会
18日(金)	終園式(1号:午前保育)
28日(土)	御用納め(弁当日)

1月の行事予定

4日(月)	御用始め
8日(金)	始園式(1号:午前保育)
9日(土)	父母の会役員会(10時)
12日(火)	1月生まれ誕生会
22日(金)	おゆうぎ会予行(弁当日)
30日(土)	おゆうぎ会

1号認定児 入園申込み受付開始 12月1日(火) ご紹介を宜しくお願いします!

退職についてのご報告
この度、補助保育教諭の武 麻衣が出産を機に、11月末で退職することとなりました。長い間のお交わりに感謝いたします。



まことのささげもの

早いもので令和二年(二〇二〇)年もあと一月となりまし。世界中が、コロナ禍一色に染められた年であったことは異論の無いところかと思えます。各ご家庭での出来事も様々に経済の回復を願いつつ新年を迎えたいと思います。

本園にとってクリスマスと言えば、恒例の「クリスマス会」です。最近では、イエス・キリストの降誕劇を中心に表現する形になっていますが、子どもの数が多かった平成の初めまでは、年長一クラスの聖劇と、もう一クラスが「まことのささげもの」という劇を披露していました。絵本などでは「鐘はなぜ鳴ったか」「クリスマスのかね」「ふしぎなかね」で知られています。ある町に、大きな教会があり、高い高い塔に「クリスマス」の鐘と呼ばれている鐘がありました。この鐘は、すばらしい「ささげもの」をすると鳴る(神様が鳴らして下さる)のだそうです。長い間、誰もその音色を聞いた者がいません。あるクリスマス・イブの日、今年こそはと多くの人たちが「ささげもの」を持つて来ました。お金持ちは、すばらしい宝石や黄金をささげました。でも、クリスマスの鐘は鳴りませんでした。みんなが「今年も鳴らなかつた」とあきらめかけていたとき、かすかに、そして次第にはっきりと、高い高い塔の上から、鐘の音が響いてきました。それはそれは美しい、うっとりとするような音色でした。一体誰がこの鐘を鳴らしたのでしょうか。人々は一斉に祭壇の方を見ました。そこには一人の小さな男の子が、一枚の銀貨をささげ、祈っていました。

クリスマスは、なぞ鳴ったのでした。実は、男の子には兄がいて、町から離れた貧しい村から、二人で教会にやってきました。でも、町の門の所に来たとき、そこに倒れている女の人を発見します。兄は、倒れている人を見捨ててはおけないと、自分が働いて貯めた金で、倒れている人を助けようとして、自分の代わりにこの銀貨を誰にも見られないように、その祭壇にささげようと言います。男の子がささげた銀貨は、この銀貨だったのでした。クリスマスの鐘はなぜ鳴ったのか。もうお分かりでしょうか。神様は、単に高価なささげものを喜んでくださる方ではありません。真心のこもったささげものを喜んでくださる方です。また、神様は隠れたことを見て報いてくださる方です。また、男の子が誰にも見られないように、そっとささげたささげものを、神様は喜ばれたのかも知れません。また、自分も行きたくかったのを、倒れている人を見捨ててはおけなかった。イエス様のお誕生をお祝いするクリスマス。私たちも、神様に喜ばれる歩みが少しでも出来るようにしたいですね。

クリスマスから始まったキリストに関する一連の出来ごとは、天からの有難い「ギフト」そのものです。クリスマスを通して、イエスの降誕の真の意味を共に学び、この世に生かされている驚きと喜びを分かち合い過ぎていきたいと思います。これが予想されます。健康に留意され、穏やかな年末年始をお過ごしになれますようお祈りいたします。

園長

クリスマスを迎えるにあたって

クリスマスはイエス・キリストの誕生を祝う日です。約2千年前、ベツレヘムの小さな馬小屋でイエス・キリストは生まれました。イエスを通して、神様からのメッセージを私たち人間に示されました。それは、戦争や餓え、不当な搾取や抑圧に苦しんでいる人たちが、自分自身の中で葛藤し悩んでいる人たちの希望の光となるためです。

私たち保育者は、キリスト教教育を目指す園として、いかなる人も希望の光を持ってこの世の中で生きていてほしいと願います。それは見えるものではありませんが、見えないものにこそ大事なことがあることを信じて保育をし、子どもたちにもそのクリスマスのメッセージを伝えていきたいです。

☆ひとりひとり神様に命を頂いて生きていること
☆ひとりひとり大切な働きが与えられていること
☆いい事も悪い事も選択できる自由が与えられていること

その自由の中、自分で考え、自分で選択し、自分で実行する時に、自己実現がなされます。その一人一人が選択した行いが神様に喜ばれる時、心も体も喜びに満たされ、希望の光として受け入れられるのです。たとえそれがほんの小さな行いだったとしてもです。

サンタクロースについて

サンタクロースの原型になったのは、4世紀初め頃のキリスト教聖職者、聖ニコラウスだと言われています。伝説によれば、ニコラウスはその相続財産を貧しく困っている人たちに分け与え、誘拐された子どもたちを助けたのだそうです。

クリスマスの絵本に”おばあさんのスープ”という絵本があります。(女子パウロ会出版)

一人暮らしのおばあさんが、雪の降るクリスマスの晩に、小さなお鍋でスープを作りました。食べようとしていた時、森からその匂いを嗅ぎつけてウサギやくま、きつね等次々に訪ねてきます。気のいいおばあさんは小さな皿にスープを分け、皆で食べたと言うお話です。皆で食べたほんの少しのスープはとても美味しく、寒さで凍えた体と心をほんのり温かくしてくれました。

クリスマスは神様が私たちに贈って下さったメッセージを思い出させてくれます。それは、あなたも私もみんな神様に愛されているのだということ。その喜びをみんなと分かち合うとき、小さな喜びはもっと大きくなります。そしてもっと幸せになります。今年も子どもたちや保護者の方々と、クリスマスの意味を考えお祝いしていきましょう。